

新庄市小中一貫教育通信 第45号

令和7年12月23日 新庄市教育委員会

9年間を通して「子どもの主体性」を育むために ～ 学校・家庭・地域で一緒にできることは ～

11月19日（水）に新庄市小中一貫教育推進協議会※¹が開催されました。今年度は、「地域の中で思いを実践・発信する」「地域の役に立つ体験をする」ことを通した子どもの育成や、主体的に学ぶ子どもを育てる9年間の教育活動について学校、家庭、地域の立場から話し合いました。話し合う中で、成果や課題、目指す方向性などが明らかになってきたので紹介します。

※¹ 新庄市の小中一貫教育の推進方針や課題の解決、学校と家庭・地域の連携などについて協議するために平成26年度より開催している会です。

◆ 憧れが育てる「やってみたい」という気持ち

学年を越えた交流の中で、「あの先輩みたいになりたい」という思いが、子どもの挑戦を後押しします。

- ・ 義務教育学校となり、異学年の関わりが増えた
- ・ 上級生の姿が、自然なロールモデルとして機能
- ・ 憧れが「主体的に学ぶ」ための入り口に
- ・ 友達の取り組みを見て新しい活動始める子も多い
- ・ 小さな「やってみたい」が、次の挑戦につながる



◆ 学校での学び — 自分で考え、選ぶ経験を増やす

ただ任せるだけでなく、子どもが興味を持つ「きっかけ」をつくるのが大切です。

- ・ 「主体的ってどんな姿？」という疑問が参加者から
- ・ 学びの入り口となるテーマ設定や問いづくりが重要
- ・ 調べる・まとめる・発表する過程で、自分の考えが育つ
- ・ 1年生でも、まずは任せてみることで幼児期に培った力が発揮される
- ・ 成功と失敗の積み重ねが、自己肯定感や挑戦意欲へ

総合的な学習の時間の役割

- ・ 身近な疑問から探究を始められる
- ・ 教科とつなげて深めることで「考える力」が育つ
- ・ 学び方そのものを身につける時間として期待が高い



◆ 家庭や地域の関わり — “任せる”と“見守る”のバランス

保護者の方の忙しさや、子どものすることに対する心配の中で、家庭では「どこまで任せるか」が悩みとなっています。

- ・ 「忙しくて子どもと向き合う時間がとれない」という声
- ・ 過干渉・過保護と無関心、両方の課題が存在
- ・ 子どもが挑戦する場面を、親がどう受け止めるかが鍵
- ・ 大人が先回りして失敗しないようにしていないか
- ・ 「いっしょにやって、見守る」が大切ではないか
- ・ 失敗も大切な学びとして、支える姿勢が求められる

子どもの育つ環境の現状

- ・ 子どもが自由に集まったり遊んだりする場所が減少
- ・ 地域活動や外遊びの機会が減り、結果的に SNS が「居場所」となっている
- ・ 体験の機会が少なく、チャレンジの機会も減っている



◆ 9年間のつながりが地域の力に

小中一貫のよさを生かしつつ、課題にも向き合いながら子どもの育ちを支えることが必要です。

- ・ 9年間を通して子どもの成長を見守れるのが大きな強み
- ・ 先輩に憧れた子が、やがて憧れられる存在へ
- ・ 地域の活動で教わった経験を、今度は地域の誰かに返す立場になる
- ・ 地域との関わりの継続が、子どもの社会性を育てる
- ・ 一方で、小6から中1への「節目」が弱くなるという意見も
- ・ PTAの連携が小中で別になりがちという課題も共有

今回の会議を通し、

「子どもを中心に、学校・家庭・地域がどう協力し合えるか」を改めて考える貴重な時間となりました。学校を含む地域全体が子どもの成長を応援し、挑戦を支える温かいまなざしを持ち続けられるよう、今後も取り組みを進めてまいります。

新庄市の小中一貫教育について、ご意見等ございましたら下記にお寄せ下さい。

新庄市教育委員会

施設設備等のことなど	・ ・	教育総務課	(直通 23 - 5004)
小中一貫教育の内容など	・ ・	学校教育課	(直通 23 - 5003)